

大草谷津田いきものの里 自然観察会

今年も数えよう アカガエルの卵

山口 由富子（市原市）

日時：2011年2月20日（日）10:30～12:00 天候：曇

参加者：18人（大人13人 子供5名）

担当指導員：芳我めぐみ、山口由富子

毎年、この時期に行われているニホンアカガエルの卵塊さがし。今年も、一般参加の方々と一緒に、カウント作業は無事終了した。そして参加者の感想は、前年とほぼ同様で、気づいてもらいたいことに気づき、それなりの評価をいただいている。そのなかで、2003年の調査開始時から加わっている芳我さんの詳細なデータが、高い評価をいただいたことを特筆したい。

振り返ってみると、この20日にいたるまでには不安な日々の流れがあった。昨年の12月13日から今年の2月6日まで雨らしい雨がなかったこと。しかも0度近い低気温が続いたことなどからか、例年は1月末頃から始まる産卵が見受けられず、2月17日になってやっと23個の固体が。そしてその日の夜、落ち葉を押し流す勢いで降った雨と高めの気温のおかげで、19日の確認では70個まで増えていた。そして観察会当日、さらに11個を確認。あわせて、やっと81個となった次第である。卵塊は、一匹のメスが1塊の卵を産むことから、その数はメスカエルの数となる。いい大人が、卵塊の数に一喜一憂している姿は、滑稽かもしれないが、その数は、自然環境の度合い（？）を現すひとつのバロメータとなるわけであるから、おのずと真剣になる。

ニホンアカガエルの卵塊数

年 度	個数	備 考
2006年	441	『いきもの里』としてオープン！
2007年	537	
2008年	×	調査方法に適正を欠きカウントせず
2009年	317	
2010年	169	
2011年	81	減少は異常気象のためか？

左表をご覧いただきたい。年々少なくなっている。これは何を意味するのか。

田や水路や林縁の手入れは、年々、良くなっている。ということは、もしや、人の出入りが多くなっていることが響いているのだろうか？近隣の田ではこれほどの減少はない。しかし、この谷津田は、人との関わりがあっての『いきもの里』であり、ことに子どもたちには、多くの自然と触れ合ってもらうことがこの『いきもの里』の使命でもある。こうしたカエルの存在は、今、大人になって自然を愛好する、特に男性たちにとっては、遊び友達であり、環境問題への目覚めを促した先達であったに違いない。この感動を、子どもたちと共に感したいと願い、毎月の観察会が開かれているのだ。まさしく『センス・オブ・ワンダー』の世界への誘いである。



シュロの葉で編んだ カエル

そうした観点から言えば、この活動は表裏一体・諸刃の剣とも言えるかもしれない。しかし、だからといって、何もしないことが自然環境を保全することになるとは思えない。気づきを促し、自然の恵みに感謝する。そのための活動を継続することにこそ、『いきもの里』の存在意義があると信じたい。

Yさんがこの日のために編み上げてきたもので、観察会終了後、子どもたちへプレゼントされた！